

### 情報社会の影

講師

藤川 大祐

#### 今回学ぶこと

情報社会の発展によって便利になることが多くなっている一方で、コンピュータウイルスの感染が広がったり、不正アクセスやフィッシングなどの詐欺が広がったり、パスワードが流出して電子決済サービスが不正利用されたりと、情報社会の「影」と言える問題が多発しています。情報社会での犯罪の事例やパスワード管理の方法等を学び、犯罪被害に遭うことを未然に防いだり、被害に遭いそうになった際に問題を最小限に防いだりできるようになれるよう、情報社会の「影」の問題について理解を深めましょう。

#### 番組を見る前に知っておこう

コンピュータウイルス、ランサムウェア、パスワード、不正アクセス、生体認証

## コンピュータウイルス

コンピュータウイルスとは、悪意をもって作られたプログラムで、アプリを起動したり、特定のサイトにアクセスしたり、電子メールの添付ファイルを開いたりすることによって、コンピュータに感染し、被害をもたらすもののことです。

最近では、感染することでコンピュータが使いえなくなったりファイルが暗号化されてしまったりして、コンピュータを再び使えるようにするなら身代金を支払えと要求するコンピュータウイルスが出回ることが多くなっています。このようなコンピュータウイルスは、「ランサムウェア」と呼ばれます。「ランサム」(ransom)とは、身代金のことです。なお、たとえ身代金を支払ってもコンピュータが再度使えるようになる保証はありません。ランサムウェアに感染しないよう注意するとともに、日頃から大切なデータのバックアップをとっておくことも大切です。

パーソナル・コンピュータだけでなく、スマートフォンやタブレットを狙ったコンピュータウイルスも出回っています。バッテリー節約アプリやセキュリティソフト等を装ったアプリにコンピュータウイルスが仕込まれている場合や、SNSのアカウントと連携させるとSNSで繰り返し宣伝の発信をするようなコンピュータウイルスが使われたりする例があります。スマートフォンがコンピュータウイルスに感染してしまうと、知り合いの連絡先などの重要な情報が盗まれたり、知り合いにコンピュータウイルスを仕込んだ電子メールを大量に送ったりと、他の人に迷惑をかけることにつながることもあります。スマートフォンでも、コンピュータウイルス対策が必要となっています。

## ネットワーク詐欺

流出したパスワードが使われて不正に買い物をされたり、SNSが乗っ取られてしまったりすることがあります。また、公式サービスを装ってIDやパスワードを入力させてIDやパスワードを盗む「フィッシング」と呼ばれる手法が使われます。

パスワードを作る際には、犯罪をしようとする者が簡単に想像できないようなパスワードにする必要があります。他のサービスと同じパスワードにしたり、氏名や生年月日から想像できるようなパスワードにしたりすることはやめた方がよいですし、短いパスワードや単純なパスワードも避けた方がよいでしょう。小文字と数字だけでなく大文字や記号（.,:;“#\$?!@など）を組み合わせたパスワードを、自分にしかわからないやり方で作ると、簡単には悪用されなくなります。

## 情報セキュリティ

安全にネットを使う情報セキュリティはとても大切です。しかし、長いパスワードを毎回入れなければならないというように、あまりにも不便なものも困ります。情報セキュリティと利便性（便利さ）のバランスをとることが必要です。

安全で便利な手段として、指紋認証や顔認証など、人間一人ひとりの身体の特徴をもとに本人であることを確認する生体認証の技術が広く使われるようになっていきます。今後、顔認証で本人確認を行って自動的に支払いまで行えるような無人店舗などで、生体認証の技術が活用されていくことと考えられます。生体認証とパスワードというように、複数の手段を組み合わせることも大切です。新しい端末からサービスを使おうとすると元から使っているスマートフォンで許可することを求める「2段階認証」なども、広く使われています。

不正利用を防止することは大切ですが、100パーセントの安全ということは考えられません。仮に不正利用された場合に被害を大きくさせないということも、大切です。たとえば、不正利用がわかったらすぐにサービスを止めたり運営会社に連絡したりすれば、被害の拡大を防ぎやすくなります。日頃使っているサービスがもし不正利用されたらと、考える習慣をつけてはどうでしょうか。